

子どもたちが学級づくりに主体的に関わっていける状態を作り出すことができるわけです。

係活動と当番活動が根本的に違うことを、子どもたちに次のように説明した上で、活動を通して自覚化させていくようにしたらよいと思っています。

- ・当番活動とは、ないとみんなが困り、学級生活に支障をきたすもの。
- ・係活動とは、なくても困らないが、あると学級生活が楽しくなるもの。

(2) 係活動を支援する際のポイント

次に、係活動を支援する際のポイントをまとめてみましょう。これは、ずっと以前、新潟県の橋本定男先生から教えていただいたものです。

- ◇子どもが自分らしさを発揮しながら、学級（みんな）の役に立つ（貢献した）という体験を与え、その事実を強化すること
- ◇教師は、時間と場所と物を保障すること
- ◇活動が行き詰まった時、情報・助言・援助を与えること
- ◇係と係、係と学級の交流を図ること
- ◇係ごとの話し合いを大切にすること
- ◇係が主催する学級全体にかかわる活動を盛り上げること
- ◇教室に係コーナーや掲示板を設けること
- ◇活動の進み具合だけでなく、人間関係の様子にも配慮すること
- ◇縁の下の力持ち的な子の発見に努め、認め、強化すること

これらを具体的に取り組んでいくことで、学級づくりの中核をなす係活動がつくれます。詳しくは、次号以降で少しずつ触れていきたいと思っています。

2 学級通信を考える～その10：子どものよいところを書く

山口市立平川小学校 梶田崇晴

「最近の子どもは変わったなあ」という声をよく聞きます。確かに、昔の子どもと比べると変わりました。しかし、変わらない部分もたくさんあります。その中の一つが「ほめられると喜ぶ」ということです。

「子どもはほめて伸ばせ」とよく言われる所以もそこにあると思うのです。学級経営の中でも、「子どもたちのよさを見つけてほめる」ということに取り組んでおられると思います。よさを見つけてもらって喜ばない子どもはいませんものね。それに子どものいいところを知らせてもらおうと親も喜びます。そういう事実を残していくのに、学級通信が大きく役立ちます。

ここでの配慮することは、よさを紹介するコーナーが一定の子どもに偏らないようにすることです。そのためには、子どものよさを探す教師の目にかかっているといっても言い過ぎではないでしょう

さて、学期末に、子どもたちのよさの集大成ということで、子どもたちの成長について書くこともお勧めします。これまで何回か書いたことがありますが、保護者にたいへん好評でした。子どもたちも喜びました。

子どもに次のように言います。

「今までの～ヵ月でできるようになったことをすべて書きなさい」

もちろん書けない子どももいます。それは担任がカバーしてあげなければならないでしょう。ここで二つの注意！

一つは、「できるようになったこと」というと、子どもたちは行動面だけを考える場合が多いです。「なわとびが100回跳べるようになった」とか「リコーダーで曲が吹けるようになった」とかです。ここでは、行動面だけではなく、態度面や思考面など内面のよさのように、目に見えにくい部分についても書いてもいいことを伝えたいと思っています。

二つ目は、子どもによっては他人との比較でできたものだけを考える場合があります。ここでは、今までの自分と比較して成長したことを書いてもいいことを伝えたいと思っています。

子ども自身に、できるようになったことを書かせること以外に、子ども同士が互いのよさを見つけあい、それを紹介するというのもいい方法です。

これらを「私の宝物」とか「成長したこと」などというタイトルで、箇条書きにして紹介していくとよいと思います。

3 中国学級活動ネットワークin米子 報告 その4

2日目は、「明日からの学級づくりを考えるパート4」と題して、持ち込み実践その2が行われました。

ここでは、「学級づくりのおすすめ実践」ということで、広島の大岩先生、岡山の岸本先生、そして埼玉の藤井先生が実践を紹介してくれました。

<大岩先生（東広島市立三ツ城小）の実践>

大岩先生は、「テーマをもって学級経営を」ということで、個と集団に着目した学級づくりに取り組んでおられるということでした。具体的なものとして「保護者回覧ノート」「100円ショップのメモ帳を使った取組み」「係活動でひとこと相互評価」の実践が紹介されました。

<岸本先生（岡山県赤磐市立軽部小）の実践>

岸本先生は、「バラバラな集団を『学級』としての集団に」をテーマに実践されたことを紹介されました。ここでは学級にいる子どもたちを集団力学の視点から見

で考えていこうという取組みが紹介されました。具体的なものとして「アプローチノート」「見方を広げる授業づくり（おっとびっくりクリティカルカード）」「異なる立場を経験する（環境教育プログラム～みんなのトンボ池）」の実践が紹介されました。

＜藤井先生（川越市立仙波小）の実践＞

藤井先生は教員4年目にして、特活の実践に取り組んでおられる先生です。ここでは「心について考えよう」という実践の紹介でした。この実践は「子どもと親の相談員」という教育相談活動の支援を職務とする方といっしょに、5年生の子どもたちに「思春期とこれからの友だちづくり」について考えさせた実践でした。

簡単な紹介で、内容がよく分からないものになってしまいました。「もっと詳しく知りたい」と思われた方は、メルマガ編集局（sugi-net@c-able.ne.jp）までご一報ください。

今回は、いよいよ杉田調査官の話を紹介します。

4 メルマガ編集部からのお知らせ

◆杉田調査官からのコメント◆◇◆

このメルマガを読まれた、杉田調査官からコメントが届きました。以下に紹介させていただきます。

*****「学級活動ネットワークメールマガジン」の活性化に期待*****
調査官の杉田です。メールマガジンを拝見しました。発信が始まってすでに25号ですが、地道な取組に感激しています。

特別活動は、子どもの人間力を大きく伸ばします。また、結果として学級経営に大きく貢献をします。このことは、実際の経験から確信をしてきたことです。このような確信をもっている多くの特活の実践者には、その特別活動の重要性、必要性、指導方法などについて、次代を担う先生方に伝えていく責任と義務があります。私たちもそうしていただいて、今があるからです。特別活動離れや特別活動軽視の傾向が進む中で、このことが今、強く求められています。山口学級活動ネットワークのメルマガは、その最も効果的な方法の一つだと思います。

より多くの方がここに参加して、中国地域の特別活動の活性化が少しでも進むことを心から期待しています。そして、そう遠くない時期に、特別活動研究大会の中国ブロックの大会が開催されるようになり、定着することにを期待しています。

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官

杉田 洋

調査官からの心強いコメント、たいへん嬉しく思っています。このメルマガが「特別活動離れや特別活動軽視の傾向を食い止める最も効果的な方法の一つ」と言っていたことに自信をもって活動を続けていこうと思います。

◆次号の予告◆◇◆

第27号は3月中旬ごろ発行予定です。

次号は、「係活動」について第2弾をお送りします。

原稿の投稿がありましたら、そちらを優先することがあります。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は132名です。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

<実践投稿のヒント>

その1 6年生を送る会について

6年生を送る会の内容、送る会に向けてどのような取組みをしているか、送る会開催までの手順など

その2 お別れ会について

学年(学級)お別れ会の内容(プログラム)、お別れ会開催に向けての留意点など

その3 学級文集づくりについて

文集の内容、文集づくりのための役割分担、文集づくりの手順など

その4 係活動について

これからの「係活動の連載」に載せてほしいこと

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴(山口市立平川小)

津村元文(防府市立西浦小)

能勢雅子(山陽小野田市立高千帆小)

吉田哲朗(山口大学附属山口小)

=====